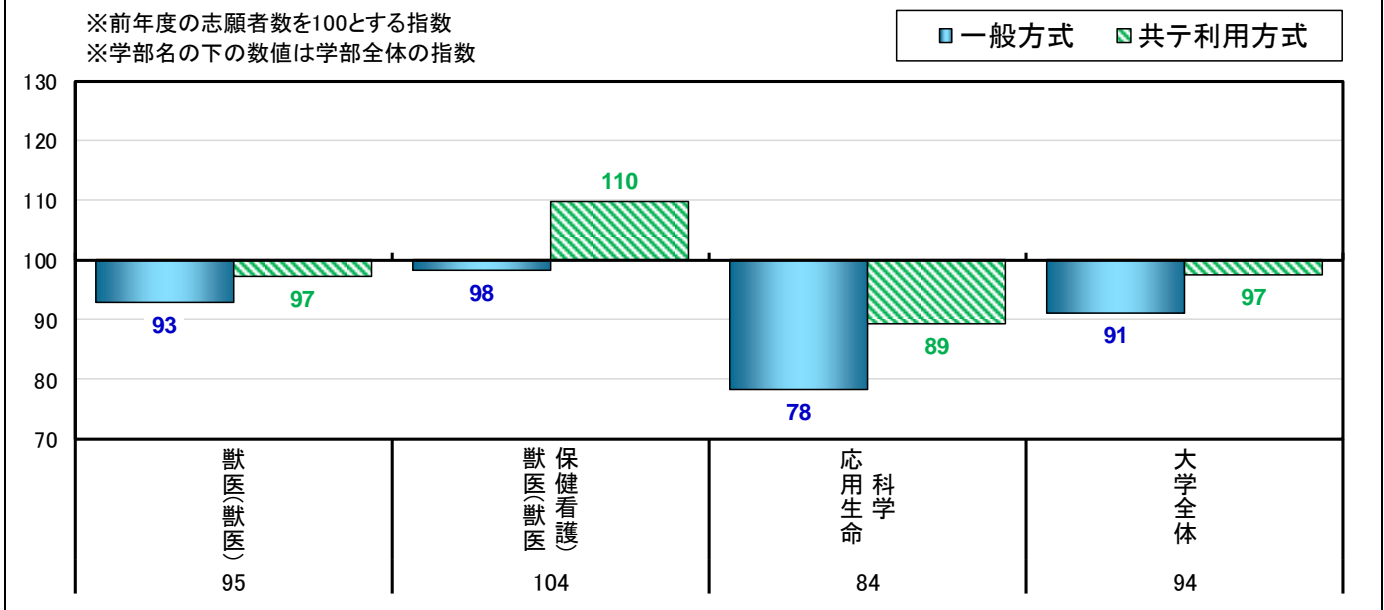


日本獣医生命科学大：大学全体では3年連続減少

一般：-141人 共テ：-40人



主な入試変更点	入試科目：応用生命科学<共テ・第1回><共テ・第2回><共テ併用・第1回><共テ併用・第2回> …理+外+(国 or 数①)→理・理基2+外+(国 or 数①) 募集人員：獣医(獣医保健看護)…<一般・第3回>5人→4人、<共テ併用・第2回>7人→6人 応用生命科学(動物科学)…<一般・第1回>40人→35人、<一般・第3回>6人→5人 <共テ・第2回>2人→共テの枠内で若干名、<共テ併用・第2回>7人→5人 (食品科学)…<一般・第1回>21人→20人、<一般・第3回>5人→3人 <共テ・第1回3科目方式>5人→3人、<共テ併用・第2回>5人→3人
---------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、181人(94)のやや減少で3年連続減少だが、獣医(獣医)を除く2学部3学科で募集人員が181人(6%)減少したことで、大学全体の志願倍率は14.0倍→14.4倍へアップ。方式別では、一般方式は141人(91)の減少、共通テスト利用方式は40人(97)のやや減少で、いずれも3年連続減少。

<一般方式>

- 獣医(獣医)(93)は、やや減少で3年連続減少。<一般>を2回実施となった2019年度以降では最少の志願者数で、志願倍率も20.8倍までダウン。募集単位別では、<一般・第1回>(92)は減少、<一般・第3回>(94)はやや減少。
- 獣医(獣医保健看護)(98)は、微減で2018年度以降の志願者数は320人前後で推移。募集単位別では、<一般・第1回>(101)は微増、<一般・第3回>(89)は減少。
- 応用生命科学(78)は、大幅減少で6年連続減少。募集人員も9人(募集人員の前年度対比指数88)減少だが、志願倍率は4.3倍→3.8倍へダウン。学科別では、(食品科学)(58)は減少率40%以上の大幅減少、(動物科学)(89)も減少で、いずれも6年連続減少。方式別では、<一般・第3回>(53)は半減近い大幅減少、遅い入試日程への敬遠が見られた。

<共通テスト利用方式>

- 獣医(獣医)(97)は、5年連続減少。募集単位別では、<共テ・第1回5科目>(108)は増加だが、<共テ・第1回3科目>(89)は減少。私立大専願者の共通テストへの敬遠傾向が見られた。<共テ併用・第2回>(100)は前年度並。
- 獣医(獣医保健看護)(110)は、2年連続減少の反動で増加。志願者数は2年ぶりに300人に達した。募集単位別では、<共テ・第1回>(112)は増加、<共テ併用・第2回>(107)はやや増加。
- 応用生命科学(89)は、減少で3年連続減少。学科別では、(食品科学)(84)は大幅減少、(動物科学)(93)はやや減少で、いずれも前年度大幅減少の反動はなく3年連続減少。募集単位別では、共通テスト受験後に出席可能な(食品科学)<共テ・第2回>(200)は倍増、(動物科学)<共テ・第2回>(118)は大幅増加で、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。